『線香花火』　西山寧音（ねね）

「線香花火で勝負しよ」

とわたしは妹に言った

お父さんに二人同時に火をつけてもらった

ジリジリジリ

赤い玉が夜の中にぽつんと二つ

わたしは落ちないように息を止めた

妹の玉が落ちそうになって思わずわらってしまった

赤い玉から花がさくように火花がちって

パチパチパチ

とポップコーンがはねるみたいな音がした

花がだんだん大きくなって妹の花火にとどきそうだ

目の前がだんだんと明るくなって

どっちが勝つかわくわくしてきた

「きれいだなぁ」

と声をそろえて言った

こんどは花が小さくなって赤い玉がプルプル

ふるえだした

「もう少しで落ちそう」

もう一度息を止めた

つぎのしゅんかん玉がすっと消えてしまった

妹も同時に消えていた

「勝負決まらへんかったなぁ」

とわたしが言うと妹が

「でも最後まで落ちひんかったで」

と言った

線香花火が落ちずに終わったのを初めて見た

落ちても落ちなくても線香花火が終わると

やっぱりさみしい気持ちになった

（終わり）